



## 教皇庁諸宗教対話評議会

2021（令和3）年  
神道の皆さまへの新年のごあいさつ

「人類家族の中で社会的きずなを深める神道とキリスト教の信者」

## 親愛なる神道の皆さま

1. 令和 3 年の元日に当たり、喜びを込めて神道の皆さまにごあいさつ申し上げます。この日、日本では何千万もの人が初詣に神社を訪れ、ご加護と祝福を祈り求めます。今年はきっと、人類家族全体を苦しめているこのパンデミックが少しでも早く終息するよう、世界中の人々と心を合わせて祈ることでしょう。わたしたちの友情と協調のきずなが深まりますよう、わたしたちも皆さまとともに祈ります。

2. 国境にも国籍の違いにも関係なく広がるこのパンデミックがもたらした大惨事は、地球上に生きるわたしたちのいのちがどれほど互いに結ばれ、支え合っているか、また人類がいかにか一つの家族を形作っているかを、すべての人に気づかせました。わたしたちはこの気づきを深めなければなりません。そしてそれぞれの国の中で、またすべての国の間のあらゆる境界を越えて、その気づきを、宗教、社会、経済、政治におけるわたしたちの生き方に反映させ、一つの人類家族を形作らなければなりません。

3. 教皇フランシスコは、すべての人に宛てた最新の回勅『きょうだいの皆さん（仮訳）』の中でこのテーマについて熟考し、次のように述べています。「今この時代に、それぞれの人格の尊厳を認めることで、きょうだい愛を求める普遍的な願いの再生にわたしたちが貢献すること、それがわたしの望みです。すべての男女の間のきょうだい愛。……そして、思い浮かべましょう。一つの人類家族として、同じ肉なるからだをもつ旅する仲間として、共通の家である地球の子どもとして、わたしたち一人ひとりが、自分の信仰と信念という豊かさを携え、自分自身の声をもち、皆が兄弟姉妹となる姿を」（きょうだい愛と社会の友愛について、8）。

4. 宗教はその本性上、人類の超越的な起源と共通する本質を求めながら、人類家族のうちに社会的きずなを培う上で重要な役割を担っています。

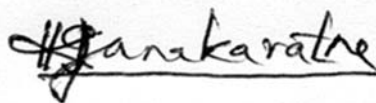
5. 神道は、日本の長い歴史の中で、人々に一致と連帯をもたらす土台ともいえる役割を果たしてきました。そして、誰もが対話できる人類家族を築くために、これからも尽くすことができます。

6. 日本の文化に深く根差した厳かで喜ばしい新年の祝いが、パンデミックを封じ込めるための制限措置の中でも、人類家族における社会的きずなを深める真の祝いとなりますように。こうした思いと祈りを込めて、心からごあいさつ申し上げます。

新年おめでとうございます。



教皇庁諸宗教対話評議会議長  
ミゲル・アンヘル・アユソ・ギクソット枢機卿



同次官  
インドウニル・ジャナカラトネ・コディトゥワック・カンカナマラゲ神父

**PONTIFICAL COUNCIL FOR INTERRELIGIOUS  
DIALOGUE  
00120 Vatican City**

Tel: +39.06.6988 4321

Fax: +39.06.6988 4494

E-mail: [dialogo@interrel.va](mailto:dialogo@interrel.va)  
<http://www.pcinterreligious.org/>